

週刊ひろしまミックス

B・I・N・G・O
MIX

VOL.

118

2008年3月2日(日)

■週1回毎週日曜日発行

★ アスバラクラブの
プレゼント応募もこちらから日刊スポーツ
NIKKAN SPORTS

朝日新聞

ASA 備後朝日会

<http://www.hiroshima-asahi.net/>

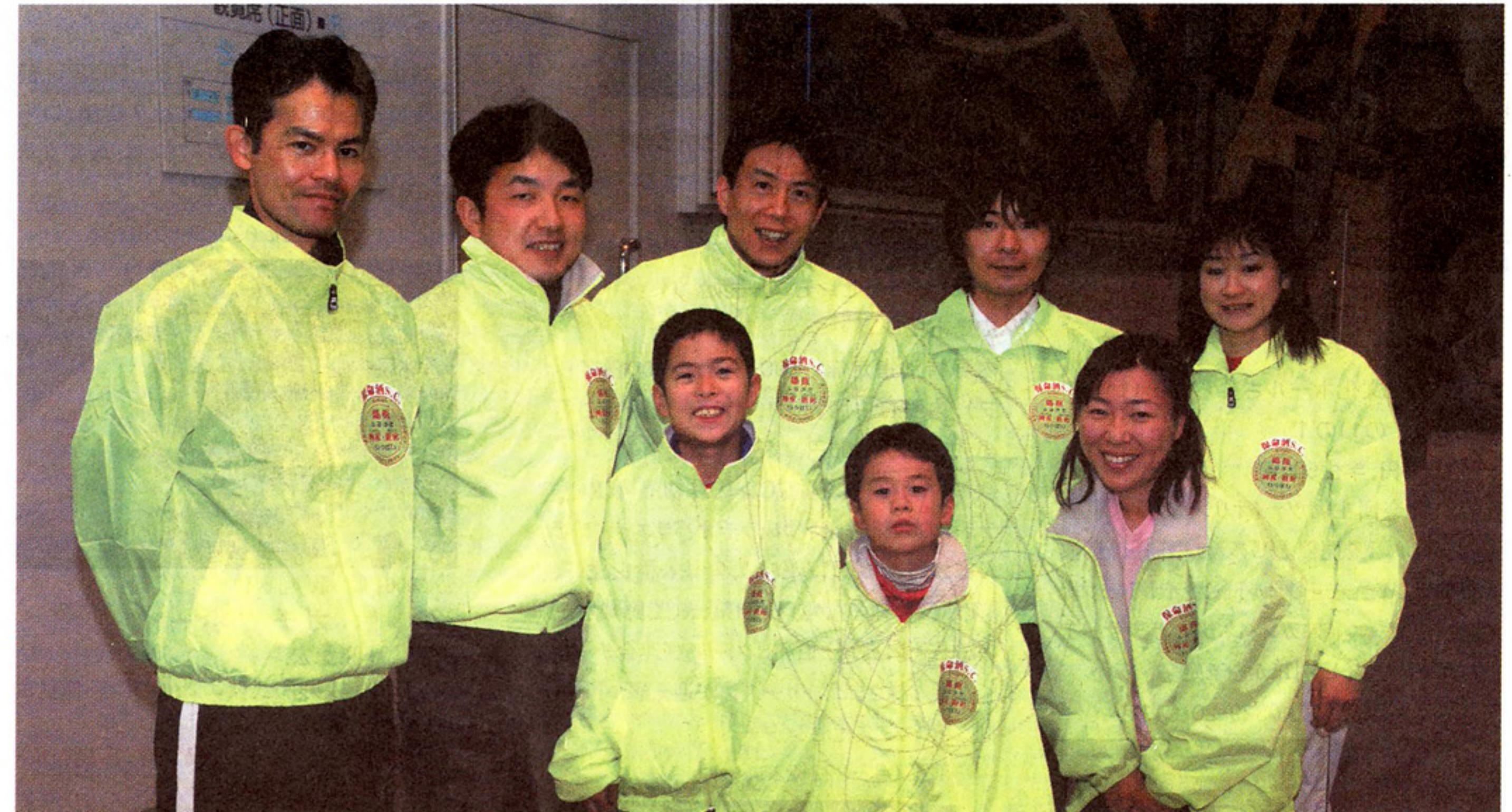
備後を、福山を、多くの方に知ってもらいたい 保命酒S.C.

福山市鞆町で江戸時代から作られている『保命酒』。もち米をベースに発酵させて作られる甘口のお酒に16種類の薬草を漬けこみ、万病に効く、長寿になるなどの薬効が評判になって、時の幕府老中首座で福山藩主の阿部正弘公によってペリー提督にも贈られたとされる歴史ある貴酒だ。



「この保命酒に代表される福山の特産物は、まだまだすばらしいものがたくさんあると思います。ところが、中核都市として約47万人にまで成長した福山ですが、かつての保命酒や備後餅(かすり)といった全国に名前の通った地場産業があまり見えてこない。地元福山の産業をもっともっと活性化させたい。そのために、『備後特産品研究会』を平成16年10月に立ち上げ、多くの仲間とさまざまな取り組みを行ってきました」と話すのは株中島商店の中島基晴専務。広大付属福山から慶應大商学部をへて、伊藤忠商事で商社マンとして活躍した後、1997年(平9)に帰郷し、1909年(明治42)から3代、約100年続く老舗を支えようと奮闘している。

「地場製造業者と販売業者、消費者とを結ぶ循環の中に同研究会を介在させ、さまざまな業種とのコラボで多くの新商品を生んできました」。岡本亀太郎本店の『保命酒』と、アイスの府中市「東屋」で『保命酒ジェラート』、同じく御幸町「マルト製菓」で『保命酒たい焼き』、ほかに『保命玉



(飴)など各所で人気の広がりを見せ始めている。ところが、中島さんたちの取り組みは商品開発だけにとどまらない。これら新商品によって得られた収益を、福山市の次代を担う子どもたちの育成、スポーツ振興に役立てている。中島さん自身が市水泳連盟所属の選手であり理事でもある関係から、ビート板などを2005年(平17)7月に市教委へ寄贈。ローズアリーナで選手や市民に貸し出されている。

また、同年1月に『保命酒S.C.(スポーツクラブ)』を立ち上げ、夏は水泳、冬はマラソン、不定期ではあるがトライアスロンなどにも仲間たちと挑戦している。「メンバーの体力づくりやスポーツを通しての交流、人のネットワークの拡充などを目的にしています。また、それぞれの大会で各人が活躍することで、チーム名やマークをPRし、広告塔になることもあります」と中島さん。仕事で知り合ったり、家族や古くからの友人などで構成される同クラブには現在9人が在籍。月に1回程度、合同練習などを行っている。

結成以来、毎年参加してきた福山市最大のマラソンイベント「第27回ふくやまマラソン」(3月16日)への参加も決定。合同練習を福山市緑町のローズアリーナで行っている。マラソンを始めて3年目と

いう馬屋原順子さん(「東屋」代表)は「一緒にいろいろな商品をつくっている中で誘われました。仕事と趣味と両方で頑張っていきます」。今回はハーフに挑戦する。「沼隈ぶどうを利用したぶどう飴(あめ)を制作しました。沼南ワインなども販売しております」という田中靖啓さん(福山市沼隈町・酒販業「田中商店」)は「スポーツはひとりじゃなかなかできないので、こうやって人の輪が広がって、ひいては地域のスポーツ普及の助けになれば」と抱負を語った。



友人の岡崎康伸さんは「最近ジムに通い始めました。マラソンも水泳もいろんなスポーツにこれから挑戦したい」。水泳教室コーチでトライアスリートの二分陽子さんと3人で、PRのため10キロヘチャレンジする。勅使かおりさんは2.5キロのファミリーで参加。「以前はR.C.Marikoという世界陸上アスリート原万里子さんが主宰する下関の教室に参加していたん

■発行：備後朝日会
福山市引野町4-5-18
TEL 084-945-8039 FAX 084-945-8045
E-mail : bingoasahikai@proof.ocn.ne.jp

■編集制作：日刊スポーツ新聞社 広島総局
広島市中区橋本町8-4-2F
TEL 082-223-1066
[なにわWEB]
<http://osaka.nikkansports.com>

詳しくは、株中島商店(福山市御船町1-13-5)、E-mail : info@nakataku.com、ホームページ : <http://nakataku.com/> まで。